

IODEP マニュアル
《PKB-065 プログラマブルキーボード》
rev 1.0

2013/04/18 株式会社 Javatel

目次

IODEP マニュアル 《MOXA E2000 シリーズ》 rev 1.0.....	1
目次.....	2
1 この文書について.....	3
2 変更履歴.....	4
3 ハードウェアの準備.....	5
3.1 MOXA E2000 シリーズの準備.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
4 設定ファイルの準備.....	6
5 MOXA デバイス→IODEP.....	7
5.1 連携デバイスにコマンドを送信するための Click&Go Logic 編集手順.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
5.1.1 MOXA ioAdmin で Click&Go Logic を編集する.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
5.1.2 ロジックを実行する.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
6 IODEP→MOXA デバイス.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
6.1 定義ファイル名.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
6.2 実行コマンド詳細.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
6.2.1 Moxa E2000 シリーズデバイスへの実行コマンド書式.....	エラー! ブックマークが定義されていません。

1 この文書について

本文書では、IODEP と PKB-065 プログラマブルキーボードとの連携方法について記述します。「IODEP_共通.doc」を先に読んでいることを前提とします。

2 変更履歴

1.0 2013/04/18 マニュアルの文書構成を大幅に見直し。複数ファイルに分割。

3 ハードウェアの準備

3.1 OmniKey キーボードの準備

PKB-065 をマニュアルに従ってインストールして下さい。

CD-ROM 内の¥Utilities¥PKB-065¥Windows¥setup.exe を実行してユーティリティをインストールした後、POSKB_SETUP.pdf のマニュアルに従ってキーボードドライバをインストールする必要があります。

3.1.1 日本語 106 キーボード使用時の設定について

なお、このドライバをインストールすると、日本語 106 キーボードを利用していても Windows の設定が強制的に英語 101 キーボード配列に書き換えられてしまいます。

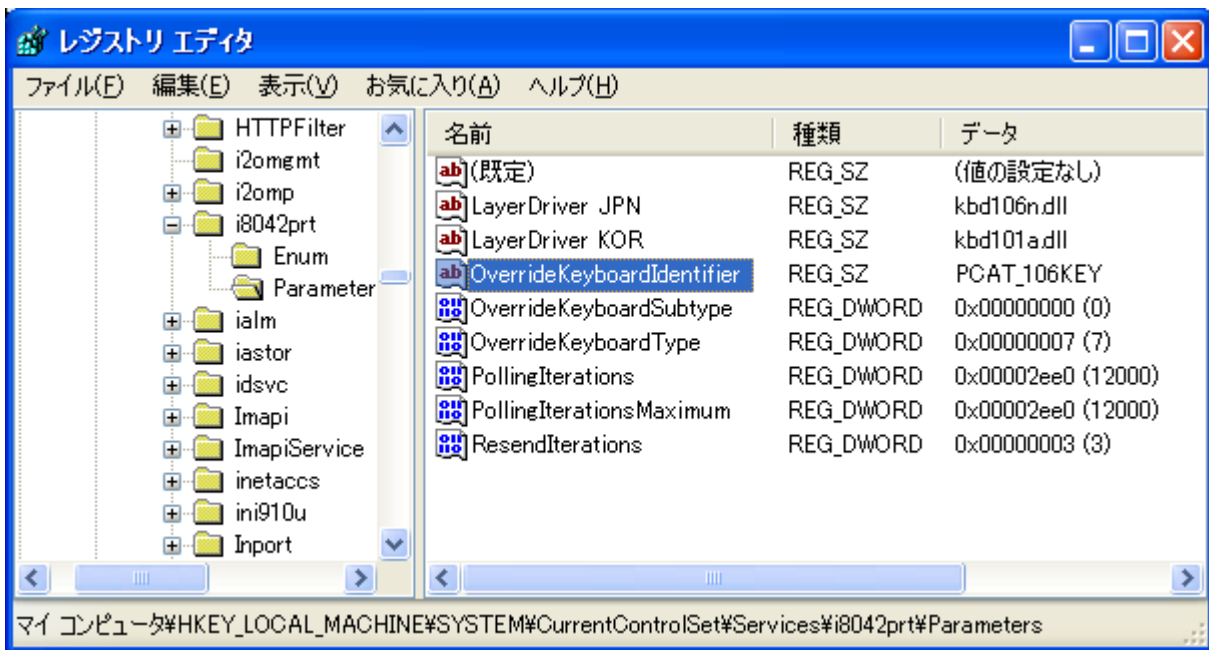
これでは不便ですので、

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥i8042prt¥Parameters のキーを開き、(レジストリキーのバックアップを取った後)

LayerDriver JPN の値を「kbd106n.dll」

OverrideKeyboardIdentifier の値を「PCAT_106KEY」

に変更してシステムを再起動するとキーボードレイアウトが日本語 106 キーボードに戻ります。



4 設定ファイルの準備

PKB-065 OmniKey キーボードに関する設定ファイル項目はありません。

5 PKB-065 プログラマブルキーボード→IODEP

5.1 キーボード入力を受け付けるアプリケーションを実行

サービスをインストールした際、OmniKeyApp.exe も一緒にインストールされていますので、ダブルクリックして実行してください。OmniKeyApp.exe を実行すると、タスクバーに常駐します。



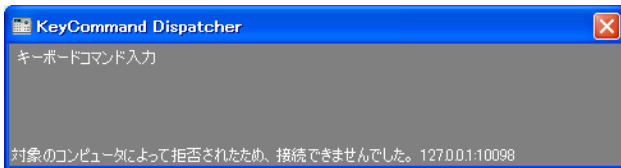
このアプリケーションは、タスクトレイアイコンのクリック、および Ctrl+Alt+Shift+C のホットキーに反応してメインウィンドウを表示します。



メインウィンドウでキーボードに設定したコマンドを入力すると、デバイス連携サービスに対して入力したコマンドが送信されます。

ESCAPE キーを入力するか、タスクトレイアイコンをクリックすると、コマンド送信をキャンセルしてウィンドウを閉じます。

なお、デバイス連携サービスが起動していない場合や、ライセンスキーにより OmniKey キーボード対応機能が制限されている場合など、コマンド送信に失敗した場合は、図のような画面になります。



(エラーメッセージは他の文字列になる場合があります)

5.2 OmniKeyApp の設定ファイル

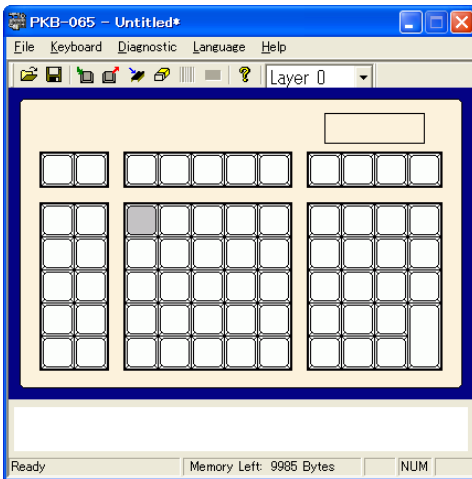
インストールフォルダ C:\¥Javatel¥IODEP にある、**omnikey.ini** ファイルをテキストエディタで編集してください。ini 形式ファイルとなっております。

OmniKeyApp.CloseOnSend	<p>true, false のいずれか。</p> <p>true: 起動時にウィンドウを表示しません。ホットキーによりウィンドウを表示し、コマンドを一つ送信するとまたウィンドウを閉じます。</p> <p>false: 起動時にウィンドウを表示します。コマンドを送信してもウィンドウを閉じません。(ずっと表示し続ける)</p>
------------------------	---

5.3 連携デバイスにコマンドを送信するためのキーボード設定

5.3.1 プログラマブルキーボードの設定アプリケーションでコマンドを定義

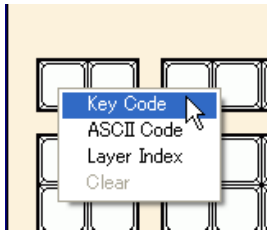
キーボードの設定アプリケーションを起動します。



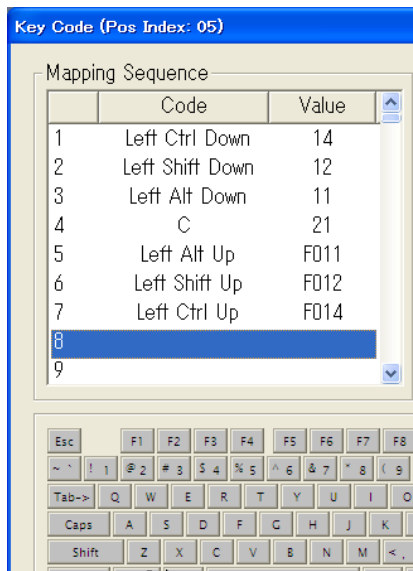
5.3.2 キー入力開始・キャンセルのキー割り当て

ここでは、例として、PKB-065 キーボードの一番左上のキーに「キー入力開始(Ctrl+Shift+Alt+C)」、そのすぐ右のキーに「キャンセル(Escape)」を、一番右下のキーに「確定 (Enter)」を割り当てます。

1. 左上のキーをクリックして「Key Code」を選択します。



2. Mapping Sequence を操作して、「Ctrl + Alt + Shift + C」を割り当てます。

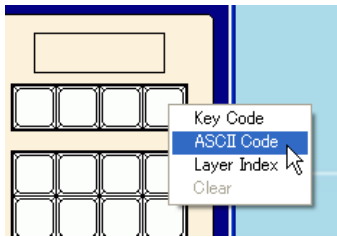


3. 同様に、すぐ右のキーをクリックして「Key Code」を選択、「Escape」を割り当てます。
4. 同様に、一番右下のキーをクリックして「Key Code」を選択、「Enter」を割り当てます。

5.3.3 コマンド定義のキー割り当て

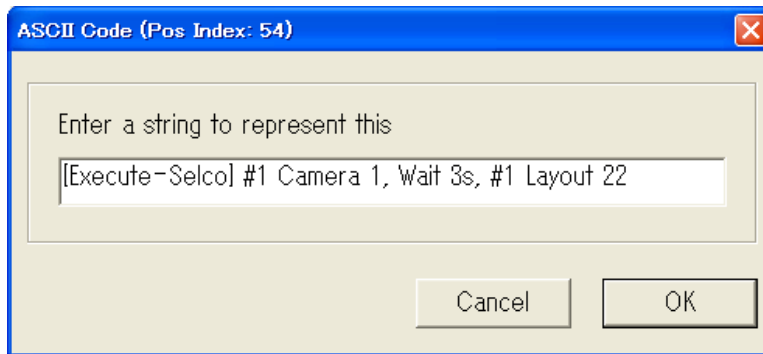
ここでは、例として、PKB-065 キーボードの上段右端のキーに「Selco マルチプレクサ#1 でカメラ 1 を 3 秒間最大表示」というコマンドを割り当てます。

1. 右上のキーをクリックして「ASCII Code」を選択します。



2. 表示されたダイアログで、

- ・ **Omnicast** への実行コマンドの場合は[Execute-Omnicast] から開始して、「IODEP_共通.doc」の書式に従ったコマンド群
- ・ **Selco** マルチプレクサへの実行コマンドの場合は[Execute-Selco] から開始して、「IODEP_SELCO.doc」の書式に従ったコマンド群
- ・ **MOXA E2000** シリーズへの実行コマンドの場合は[Execute-Moxa] から開始して、「IODEP_MOXA.doc」の書式に従ったコマンド群
- ・ **PELCO** スイッチャへの実行コマンドの場合は[Execute-Pelco] から開始して、「IODEP_PELCO.doc」の書式に従ったコマンド群
- ・ **登録メールアドレスへのメール送信**の場合は[Execute-Sendmail] から開始して、「IODEP_SMTP.doc」の書式に従ったコマンド群を記述します。



(註) コマンド定義ファイルでは、複数の実行コマンドをタブ文字で連結しましたが、ここではカンマで連結します。なお、カンマの前後にスペースを入れることは自由です。

3. キーボード設定アプリケーションで「Update Key Mappings」の操作を行い、キーボードに設定を反映します。

5.3.4 キー割り当ての応用(入力待ちモード)

例えば、任意のカメラ番号の最大表示を行いたい場合、カメラ番号だけをあとからテンキーで入力するようなキーを定義することができます。

OmniKeyApp.exe は、入力されたコマンド中に「**{!d}**」または「**{!a}**」という**入力待ち文字列**があった場合、下図のような入力待ちモードになります。



入力待ちモードになった後は、キーボードからの入力を受け付け、**Enter** が入力されると、それまでに入力した文字列で入力待ち文字列の部分を置換します。**Escape** が入力されると、コマンド送信をキャンセルしてウィンドウを閉じます。そして、入力待ち文字列がすべて置換された時点で、サービスにコマンドを送信します。

なお、「**{!d}**」は、数字のみを受け付け、「**{!a}**」は、任意の ASCII 文字を受け付ける違いがあります。

5.3.5 キー割り当ての応用例

(例 1) **[Execute-Selco] #1 Camera {!d}, Wait 3s, #1 Layout 22**

数字を受け付ける入力待ちモードになり、カメラ番号を入力してから **Enter** を入力すると、入力したカメラを Selco マルチプレクサ#1 で最大表示し、3 秒ウェイトの後、2x2 レイアウトに戻る。

(例 2) **[Execute-Omnicast] Macro 10(!a), Macro 12(!d)**

任意の ASCII 文字を受け付けるモードになり、引数を入力してから **Enter** を入力すると、次は数字を受け付ける入力待ちモードになり、また引数を入力してから **Enter** をタイプすると、1 つめの文字列をマクロ 10 番に、2 つめの文字列をマクロ 12 番に渡して実行する。(ただし、引数の中にスペースおよびカンマは含むことができません)